



栗原に移住して見つけたもの。

～花咲き、鳥うたい、人笑う。まさにここは人生の楽園～

移住者インタビュー

もぎたてフルーツ工房
の
土里夢

渡辺 信雄さん

11月24日、第2回移住者交流会が開催されました。交流会には、既に市内に移住された方々だけでなく、首都圏に在住する移住希望者や、現在展開中の「ゆるくておもしろい? 移住プロジェクト」参加者も加わり、交流の輪がさらに広がったように感じます。

今号では、交流会でゲストスピーカーとしてお話をいただいた「もぎたてフルーツ工房土里夢」の渡辺信雄さんの栗原での暮らしぶりについて、交流会の様子を交えて紹介します。

現役を引退したら、あとはおまけの人生…?

それはちょっとつまんないかい。

現在、妻の生子さんと2人暮らし。百姓をしながらシャーベット屋を開業して、現役時代以上に忙しく充実した毎日を送ってます。

移住ってものを考えはじめたのは40歳を過ぎた頃。ふと「退職したらどうするのかな?」って考えたときに、年金をもらいながら都会に暮らすって、現役を引退したらあとはおまけの人生、それがお年寄りの余生っていうもんかかって思ったら、それはちょっとつまんないなと。

東北の田舎に移って農業をして食料は自分で作り、魚釣りしたり、山菜やキノコを採ったり、自然の中で楽しく暮らすということを目指して土地を探しはじめ、そんな中で、縁あって今の土地にたどりつきました。栗原市一迫片子沢地区。栗原市の中でもとびっきり田舎の方に移り住んで参りました。

先(未来)の暮らしが見えない不安…。

そんな流れに歯止めをかけたい。土里夢オープン!!

移住して暮らす中で、分かったことが基幹産業である農業がなかなか見通しを持ちにくいということ。このまま何もしなければ、やがて人は移って行って、人は住まないようになっていくという風なことが見えてきて、地域のために何かできることがあればと思うようになってきたんですね。そこで、地域起こしに役立つことができればと思って、地域にふんだんにあるフルーツや野菜を生かして、ジャムコンポートに加工・販売する「もぎたてフルーツ工房土里夢」を地域の皆さんと立ち上げました。



【プロフィール】

渡辺 信雄さん 1949年(昭和24年) 岐阜県生まれ
大学進学を機に上京。卒業後、東京都日野市役所に就職。
定年退職後4年間、日野市の地域福祉の仕事をした後、人生の楽園を求めて2014年に、妻の生子さんと栗原市に移住。
地域の仲間たちの全面的な協力のもと、2015年7月、里山の恵みで作るシャーベット工房「もぎたてフルーツ工房土里夢」をオープン。
2016年7月:人生の楽園(テレビ朝日)にて紹介される。

僕と一緒に仕事をしている土里夢の仲間たちは全部で11人。この人たちと一緒に農産物を生産したり、加工品を作ったりして楽しく暮らしています。自然に囲まれた暮らし、地域の皆さんとも一緒に楽しんでいる暮らしにも、大満足しているんです。土里夢をオープンした時、移住して、私の人生の楽園を見出したと思えましたね。

地域に今あるもの(資源)を大事にしたい。

今あるものを活かして、値打ちがあることを認め合う。

…けどね、ちょっとこのままずっと楽園が続くってわけにも行かないよな～って見えることもあって。よく周りの人たちがこんなことを言うんですね。

「コメ作りはおらだづ(俺たち)の代で終わりかもしんねーなあ」
「息子たちがやりたいと言ってもやらされねえ」

私たちの周りは農業を中心に行っている人たちですけど、先の暮らしが見えないっていう不安が地域を覆っていると感じています。

そういう事に何か役立つことがしたい、そんな流れに歯止めをかけたいというようなことを無謀にも思っているわけです。

その為には地域の資源を活かす、地域に今あるものを大事にしたい。今あるものを活かして、それに値打ちがあるってことをみんなが認め合って、地域を大切にしていける。そういう風なことをしていきたいなと思って、今にたどり着いた感じです。

渋柿、梅、イチジク…

色々なものがあるのに活かされていない

農家の庭先を見るとね、必ず3〜5本、柿の木が植えてあるんですよ。この地域は寒いので、ほとんど渋柿なんですけどね、全然収穫しようとしません。

梅も植えてあります。花を見ているわけじゃなくて、本当は梅干しにしたり、加工したりするように植えてあるんだけど、これも手が掛かるから収穫しない。イチジクやキウイも植えてある。色々なものがあるんですけど、資源としてはほとんど活かされていません。

木苺、ナツハゼ、桑の実…里山は野生フルーツの宝庫

私は里山に住んでいますけど、里山は野生フルーツの宝庫なんです。木苺もいっぱいあるし、ナツハゼっていうブルーベリーの原種や桑の実など、様々なフルーツ類が自生しているのに、これも全然使われず熊の餌になるだけ。

そんな地域の資源を加工することで、1年中利用可能になり、資源を活かした地域の活性化につながるんじゃないかと、事業を始めたわけです。

素晴らしい自然に惹かれて…

花咲き、鳥うたい、人笑う。ここは人生の楽園。

花咲き、鳥うたい、人笑う。まさに、ここは楽園だと思っています。食べ物を自分の手で創り出す喜びは格別です。

私も30アールだけ米を作ってるんですよ。自分が食べるものを自分で作るっていうのがね、とてもいい仕事だと思っているんです。お百姓って本当いい仕事だなと思っています。

東京は食べるものはよそからお金で買って、自分のところでほとんど作れないんですよ。

そんな東京では味わうことのできない、自分の手で作るというところに値打ちがあると思っています。

自然体系が豊かな土地。濃密な自然の中で生きている。

栗原っていうのは大いなる田舎だと思います。地域の自然、歴史、暮らしを見直してみると、本当に素晴らしい場所だということがわかると思うんですね。

熊だけでなく、カモシカや日本鹿が歩き、空を見上げれば鷹が飛んでいるんですよ。都会の人は鷹なんて見た事ないでしょ？鷹は食物連鎖の頂点にいる生き物です。

その鷹がたくさん生息しているってことは、それだけ自然体系が豊かであることを反映している。栗原はそういう場所なんです。

極めて濃密な自然の中で生きているっていうことが大事なことだと思っています。



陽が昇れば起きる、陽が暮れたら眠くなる。 自然のサイクルに従うとは人本来の姿を取り戻すこと。

田舎の暮らしってのは、お天気しだいで次の日に何するかが決まるんですよ。だから天気予報も毎日見ます。

「明日は雨…じゃ、明日は外仕事できね〜から中でこれしよう」「明日は晴れ…だったら明日こそは草取りやらなくちゃ」とかね。そういう風にして自然のサイクルに従って暮らしが決まっていってという暮らしなんです。

「不夜城」の都会暮らしから田舎暮らしに転換するってことは、自然のリズムを体に取り込むことなんです。陽が昇れば起きる、陽が暮れたら眠くなるっていうリズムを取り込むこと。それは人の本来の姿を取り戻すことなんだと思います。

単に田舎暮らしに憧れるだけじゃなくて、 こんな生き方がしたいという『志』を持つことが大切。

移住に際して大切にしたいものは「志」を持つことです。田舎にただ憧れるんじゃない、田舎でこういうことがしたい、こんな生き方をしたい、そういう「志」「目的」みたいなものがあつたらいいんじゃないかと思っています。

なんとなく田舎に憧れてとか、都会の暮らしに疲れたからみたいな理由もありますけど、それでは長持ちはしないかもしれない。何かこれをやって生きていこうというものを持ってきたらいいんじゃないかと思っています。

それから、どこに住んでも、どんな場所でも必ず何かしらの課題はあるものです。人が生きている限り、幾度となく必ず課題にぶつかります。

それを「よそ者」だからといって「俺には関係ないな…」という感じで傍観してしまうのはちょっと寂しいかなと思います。

地元の人たちと一緒に解決していくために何か役立つことがあつたらやってみよう、そんな人でありたいなという風に思っています。

住むなら都会より田舎。もっとも田舎らしいまち、栗原。

移住者の交流をやっていますけど、もともと住んでいる人たちとの交流に楽しみを見出すというのが、私は移住の醍醐味だと思います。全然違う文化で育ってきた人たちなわけですよ。

生まれた時から周りの人たちはずっと変わらないわけですよ。その中で生まれてきた者と、都会のように容易に隣の人が入り替わる。どんどん変わっていく中で、薄い軽いお付き合いで済んだのでは全く違うんですよね。

人となりが変わってきますよ、そういうものを楽しむと。違いを楽しむことがいいと思います。

『都会風』を持ち込むことは野暮。 溶け込むには、素直に心を開いていくことが大切。

暮らしているとね、今までとは違うと感じることが結構あるんですよ。違ってはいるなって思った時に、今まではこういう風だったんだけどな～って言ったら「だから何よ。都会風がいいわけ？」って言われて、うるさがるるんですよ。だから、溶け込む努力っていうのが必要な面があります。

地域に溶け込むための知恵というのもあると思います。溶け込むって言うても始めからどうしたらいいかわからないんですよ。そこに知恵がほしい。だからそれはね、考えたってわからないから、教えてもらうのが一番いいんです。

地域の先輩に教えてもらうってことが大事。素直に聞いて教えてもらう。自分から心を開いていくというのが大事だと思っています。

自治会や行政区などのコミュニティを大切に それを理解し、地域の流儀を尊重する。

地元の人たちは、自治会や行政区とか、コミュニティを大事にしているんですよ。すごく大事にしているから、地域行事には何を置いても皆さんが参加して、地域を盛り上げてきてるわけですよ。

ですから、私もそこに参加することで、「この人は地域の流儀を尊重してくれるな」って、たぶん思ってくれたんだと思うんです。そういうことも大事な要素だと思います。



移住者が地域に溶け込もうと努めるところに 新しいエネルギーが生まれ、地域の活力につながる。

移住者は移住者なりのアイデンティティーがあります。私は、よそ者だっって言わず、都会風を振り回さないで、地元風に染まっていこうよって言っています。

でもね、移住者が完全に地元風に溶け込んで消えてしまうかという、溶け切れるものじゃありません。それは無理です。もともと違いますからね。違って当然。その違いは大切にしていた方がむしろいい。

よく「若者、よそ者、馬鹿者」って言いますが、地域で何か新しいことを始めたり、地域を変えようとするのはこういう若者、よそ者、馬鹿者だと。

要するに、地域のことをよくわからないんだと。事情がわからないから何でも思い切ったことをやるんだという意味なんです。半分は期待されて、半分は馬鹿にされているんです。

そういう風に言われているように、よそ者が持っている力とか、影響力というものはきっとあると思います。移住者が地域に溶け込もうと努めるところに新しいエネルギーが生まれて、地域の活力に繋がっていくんじゃないかと思っています。

【おわりに】栗原って場所は一筋縄じゃいかない(笑) でも、人は温かい。人に優しい。そんな田舎です。

今日は、移住希望者の方も出席されていますが、栗原っていうのはなかなかね、一筋縄じゃいかない場所です(笑)でもね人は温かいですね。人に優しい。

新しいものにはすごく興味を持ちますね。隣に住むものなら、毎日何してるかじい～って観察してます(笑)全部知っているの。「お前の家の畑には何が植わって、これは無いから持ってきたよ」って。

「なんで家の畑なんか知ってるの？」って(笑)みんなが知っているんですよ、ちゃんと。すごく興味をもって見てくれる。

それは期待もあるんですよ。それにやっぱりできればね、そういうことに応えるようにして、そういう人たちと交流を深めて、地域にうまく溶け込むことができれば、新しい人生が始まるんじゃないかなと思います。

そういう新しい人生を求めて移住をするっていう風なスタイルが僕はいいんじゃないかなって思って、今暮らしているわけです。(終)



移住者交流会 番外編



くりはら おすすめスポット
まるかつ
会席料理 丸勝

- 営業時間 昼 11:00~13:00
夜 17:00~20:00
- 定休日 不定休
- 住所 栗原市一迫真坂字町東181-2

今回の移住者交流会の会場となったのは、昭和32年創業の「会席料理丸勝」さんです。

店主の阿部さんは、「地産地消」をモットーにしており、栗原の食材をふんだんに使った創作料理の数々を堪能できるイチオシのお店です。この日も地元のトマトやえごま、岩魚などを美味しく料理していただき、交流会を盛り上げてくださいました。

お店では、明るい女将さんが笑顔いっぱいでおもてなししてくれます。栗原の「食文化」についてお話を伺いながらお料理をいただくことで、味わいも一層深まります。



空情報 住まいる栗原 ホームサーチ事業
空き家バンク制度のご紹介!

栗原市では、空き家の有効活用を目的に「空き家バンク制度」を開設しています。開設後の成約件数も20件を超えています。

利用登録されている方には、新たに物件登録がされた都度、最新の情報を提供しています。

栗原市への移住を検討されている方には、空き家バンク利用登録をおススメします！申請方法などの詳細は栗原市のウェブサイトをご覧ください。

来てみらいん。栗原



移相 栗原の "暮らし"&"しごと"の情報届けます!!
談住 2018年(1~3月)相談スケジュール

1/21 (SUN) 移住・交流&地域おこしフェア

- 時間 10:00~17:00【入場無料】
- 会場 東京ビックサイト 西1ホール

全国から約400団体が参加するイベントに栗原市も参加します。移住相談・地域おこし協力隊の求人情報などをご提供します。ぜひお気軽にご相談ください。



1/21 (SUN) みやぎ県の県北地域って なじよなと祭&移住相談会

- 時間 13:30~15:30【入場無料】
- 会場 東京交通会館6F LEAGUE有楽町

宮城県北工リアの栗原市・大崎市・登米市・加美町・美里町・色麻町・涌谷町が揃って出展！特産品を試食しながらワイワイ交流しましょう！



2/3 (SAT) 『東北でしごと+創業』
2018 UIJターン応援フェスタin東京

- 時間 11:00~17:00【入場無料】
- 会場 ベルサレ秋葉原 2階ホール

会場は、JR秋葉原駅「電気街口」から徒歩3分！東北各県と(株)日本政策金融公庫の主催による相談会です。東北で働く・創業することについて重点的にご相談に応じます。

3/3 (SAT) 岩手県南・宮城県北へのいざない
伊達なくらしセミナー

- 時間 13:00~15:30【入場無料】
- 会場 東京交通会館8F

宮城県栗原市・登米市、岩手県一関市・平泉町4市町合同の移住交流イベントです。今号で紹介したもぎたてフルーツ工房土里夢の渡辺夫妻もゲストスピーカーとして登場します。



私たち、栗原移住定住チームが
ご相談に対応します!!



地方への移住を考えている方が思い描く新たな生活が、より豊かなものになるように。相談会での出会いをきっかけに、継続的に相談対応・各種情報提供させていただきます。



発行元 宮城県栗原市 企画部 定住戦略室
TEL 0228-22-1125
問い合わせ先 Email teijyusokushin@kuriharacity.jp